

NPO 法人頸城野郷土資料室
2023 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石川 伊織

| 研究課題 | 研究進捗状況 | 発表状況 |
|------------------------------------|---|---|
| <p>【くびき文化に関する研究】 ・新潟を旅する人々</p> | <p>昨年度に発掘した 100 年前の新潟高等学校の校友会誌掲載の修学旅行の記録を翻刻し、これに注釈を施す作業を通して、大正から昭和への転換点における「旅」の意味についての考察を深めた。注釈付きの翻刻は『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』に 2 回に分けて資史料紹介として掲載した。またこの翻刻の準備作業と並行して「くびき野カレッジ天地びと」の場で研究の一端を発表した。修学旅行が皇国思想教育の場でもあり、軍事教練ないしは行軍演習の意味合いも持っていたことが、教育学史の研究から明らかになっているが、これを実証する具体的な資料として、重要な文献を公開することができたと考える。新潟県全域の戦前の中等教育の資料と突き合わせることで、教育における旅の意味の変遷を明らかにしたい。また、昭和 9 年の与謝野晶子の新潟・佐渡の講演旅行の軌跡に関する研究は、長岡の互尊文庫所蔵の新聞資料、また長岡大手高校の同窓会誌等を晶子・鉄幹の刊行原稿と突き合わせることで、詳細が読み取れるまでにはなってきた。さらに資料の探求が必要である。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・くびき野カレッジ天地びと 第 26 期「1927 年の新潟高等女学校修学旅行記——校友会誌『呉竹』第 13 号（昭和 3 年刊）掲載の、複数の生徒による修学旅行記にみる、過酷なツアーの全貌」（2023 年 5 月 13 日 町家交流館・高田小町） ・くびき野カレッジ天地びと 第 27 期「1927 年の新潟高等女学校修学旅行記 2——女学校の修学旅行・東京編：ハードスケジュールと皇国思想」（2023 年 11 月 11 日 町家交流館・高田小町） ・「資史料紹介 1927 年の新潟高等女学校修学旅行記 1」『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』Vol.8/No.14. 2023 年 12 月 21 日 ・「資史料紹介 1927 年の新潟高等女学校修学旅行記 2」『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』Vol.8/No.15. 2023 年 12 月 21 日 |

| | | |
|--|--|---|
| <p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>・『ヘーゲル美学講義における絵画論の芸術哲学的な意義とボアスレ・コレクション』（2020年度～2023年度 科学研究費 基盤研究(B) 課題番号：20H01204)</p> <p>・マンガ研究</p> | <p>ヘーゲルの芸術哲学思想には、ボアスレ兄弟の絵画コレクション（現在はミュンヘンのアルテ・ピナコテークの主要な収蔵品となっている）とドレスデンのアルテ・マイスター絵画観所蔵の作品群を見たことがもととなっている。このことは、先行する我々の研究『ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究』（2014年度～2018年度 科学研究費 基盤研究(B) 課題番号：26284020)において既に明らかとなっている。この一方の資料源泉であるボアスレのコレクションとそれを取り巻く人々の思想に関する研究が今回の共同研究のテーマである。芸術思想の点では、ボアスレ兄弟の絵画観とフリードリッヒ・シュレーゲル美学思想の相乗作用の結果が、彼らのコレクションに表れているといえよう。本研究の課題は、哲学的には対立するものと考えられてきたヘーゲルとロマン派との接点を絵画論から探ることにある。研究期間の最終年度に当たる本年は、コロナと戦争の影響で先送りしてきた現地調査を年明けにも行い、バイエルン各地の美術館に分散して収蔵されることになったボアスレのコレクションの全体を把握すべく準備を進めている。</p> <p>マンガの技法と歴史について、長岡市のまちなかキャンパス長岡（長岡市の市民講座）の要請で講演した。第一にマンガの外国語への翻訳という観点から、第二に媒体が冊子から電子情報に移行しつつあるという視点から、マンガの現状について考察した。</p> | <p>・「Atheneum の絵画論」（科研費研究会 新潟県立大学 2023年3月6日）</p> <p>・「Schlegel 兄弟の絵画論 Atheneum と Europa 誌上にみる絵画論の課題」（科研費研究会 2023年9月17日オンライン）</p> <p>・「マンガの今と昔——紙からスマホへ——」まちなかカフェ（まちなかキャンパス長岡 2023年11月15日）</p> |
|--|--|---|

NPO 法人頸城野郷土資料室
2023 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石塚正英

| 研究課題 | 研究進捗状況 | 発表状況 |
|-----------------|--|---|
| 【くびき文化に関する研究】 | ますや de お話し会を利用して、くびき文化に関する研究成果を報告した。 | <p>[4月8日]棟方志功ほか頸城野を旅した人々</p> <p>[8月12日]茅の輪と蘇民将来</p> <p>[9月9日]子ども遊びエンガチョ</p> <p>[10月14日]文明開化の写真師 鹿野浪衛</p> <p>[7月21日]先史古代端境期の物証か—上越市三和区藤塚山の列塚、KFA 紀要、Forum120</p> <p>[新聞記事]頸城野の『歎異抄』—常敬寺と最賢寺、上越タイムス、2023.11.06</p> |
| 【くびき文化に関係しない研究】 | 【文明を支える原初性】というテーマのもとに、論文執筆、学術報告などを行った。 | <p>[論文] 原初性の探究は未来学の構築に至る—収奪技術から還流技術へ、KFA 紀要、Vol.8/No.03</p> <p>[論文] ブロッホ思想の 21 世紀以降的可能性—『希望の原理』コメント、KFA 紀要、Vol.8/No.04</p> <p>[論文] ラピス・ラズリー—玉石混交の文化誌、KFA 紀要、Forum116</p> <p>[論文] スルタンガリエフとオジャランあるいはタタールとクルド、KFA 紀要、Vol.8/No.07</p> <p>[論文] 地中海的ハビトゥスと量子世界観—ブローデルとブルデューを参考に、KFA 紀要、Vol.8/No.11</p> |

NPO 法人頸城野郷土資料室
2023 年度学術研究概要報告

研究者氏名 唐澤太輔

| 研究課題 | 研究進捗状況 | 発表状況 |
|---|--|--|
| 【くびき文化に関する研究】 ・「裏日本」文化に関する調査研究 | 秋田県内を中心にフィールドワークを実施 〈秋田県内〉 赤神神社五社堂（4月23日）、角館松本家住宅（4月29日）、入道崎（5月3日、10月14日）、ネコバリ岩（6月25日）、真山神社（9月24日）、伊勢堂岱遺跡（11月11日） 〈山形県内〉 羽黒山五重の塔（5月6日）、酒田市山居倉庫（5月7日） | なし。 |
| 【くびき文化に関係しない研究】 ・南方熊楠が粘菌研究から構想した生命論の探求 | 1) 粘菌の変形体の原形質流動を中心とした動態の観察、調査 2) アートを通じた粘菌と人間との関係性の研究 南方熊楠の粘菌に関する言説を参照にしながら、また野生種の粘菌の継続的な観察を通じて、アートと粘菌の接続を試みた。 | 〈主な講演〉 ・「粘菌を通じて考える一身近でマイクロな世界の可能性―」第2期 GSP 南紀白浜、南方熊楠記念館（6月12日） ・『『夢とこころの古層』出版記念オンライントーク』河合俊雄×鏡リュウジ×唐澤太輔、創元社、オンライン（7月13日） |

| | | |
|--|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・「粘菌・ニット・渦」蓮沼千紘×唐澤太輔、秋田公立美術大学開学 10 周年記念展「美大 10 年」スピンオフ企画、秋田市文化創造館（7 月 30 日） ・「動物か植物か、生か死か、「粘菌」が教えてくれるもの」夢ナビ講義動画、オンライン（8 月 23 日） ・「粘菌×哲学×アート」夢ナビ研究室訪問、オンライン（10 月 21 日） ・「〈あそび心〉と〈柔らかい素材〉で他者にシンクロすること」八戸学院大学短期大学部特別授業、八戸学院大学短期大学内（11 月 10 日） <p>〈主な作品・ワークショップ〉(粘菌研究クラブ代表として)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「粘菌ワークショップ ペたぺた・もによもによ in 紀南」紀南アートウィーク、南方熊楠記念館（6 月 11 日、12 日） ・「NENKIN!!!!」秋田公立美術大学開学 10 周年記念展「美大 10 年」、秋田市文化創造館（7 月 6 日～8 月 7 日） ・「ねんきんオーケストラ」かみこあにプロジェクト 2023、上小阿仁村コアニティ（8 月 11 日～9 月 18 日） ・「ねんきんのおへや」あそびのはじまり 2023、秋田市文化創造館（9 月 30 日、10 月 1 日） |
|--|--|--|

| | | |
|--|--|---|
| | | <ul style="list-style-type: none">・「moi moi-même」八戸学院大学短期大学部 H∞LL Gallery (11月10日～11月29日)・「うごめけ！マステ粘菌ワークショップ」八戸学院大学短期大学部特別授業、H∞LL Gallery (11月10日) |
|--|--|---|

NPO 法人頸城野郷土資料室
2023 年度学術研究概要報告

研究者氏名 黒木朋興

| 研究課題 | 研究進捗状況 | 発表状況 |
|-----------------|---------------------------|--|
| 【くびき文化に関する研究】 | 特になし | 特になし |
| 【くびき文化に関係しない研究】 | 埼玉県秩父地方の札所と石仏に関するフィールドワーク | 〔論文〕「マラルメとクロードルー二人のフランス詩人のワーグナー論を巡って」, 『ポール・クロードルとその時代』, 水声社, 令和5年6月 〔研究会発表〕「絶対音楽と象徴主義」, ポスト=ヒューマン時代の起点としてのフランス象徴主義研究班, 令和5年11月25日, 於 京都大学人文科学研究所 |

NPO 法人頸城野郷土資料室
2023 年度学術研究概要報告

研究者氏名 古賀 治幸

| 研究課題 | 研究進捗状況 | 発表状況 |
|---|---|---|
| <p>【くびき文化に関する研究】 くびきの文化関連 ・直江津プロジェクト関係</p> <p>・「道・旅・文化交流」関係</p> | <p>1) くびき野カレッジ (資料調査等) ・資料収集 (4月22日): 北九州市、小倉中央図書館 (小倉第12師団関係) ・資料収集 (9月15日): 上越市公文書センター、高田図書館 (頸城三郡地図、高田市街図等) ・資料収集 (9月16日): 新潟市、新潟県立図書館 (新潟県越後国頸城三郡地図等)</p> | <p>[報告] くびき野カレッジ-天地びと- 第3講 「直江津往還補説 17-頸城全国往来: 絵図と地形図 2-」 (5月13日)</p> <p>[報告] くびき野カレッジ-天地びと- 第4講 「直江津往還補説 18-頸城野内往来: 頸城の近代と地図 1-」 (11月11日)</p> <p>[原稿] 「頸城地方の道の変遷」『21世紀の上越スタイル』</p> |
| <p>【くびき文化に関係しない研究】 歴史学関連 ・近現代史関係</p> <p>・ロシア、ソ連史関係</p> | <p>・日本西洋史学会参加 (名古屋大学) ・近現代史研究会開催 (対面、zoom 併用)</p> <p>・ロシア史研究会大会参加 (zoom)</p> | |

NPO 法人頸城野郷土資料室
2023 年度学術研究概要報告

研究者氏名 真野俊和

| 研究課題 | 研究進捗状況 | 発表状況 |
|--|---|---|
| 【くびき文化に関する研究】 くびき野カレッジ講義 | | <ul style="list-style-type: none">・2023年5月13日「江戸芸人の見た高田」・2023年12月9日「山の法師と里の勸進—越州越知山と能登石動の事例から」 |
| 【くびき文化に関係しない研究】 四国遍路習俗の総合尾的性格に関する 検討 | 四国4県によって設置される「四国遍路 ～霊場と巡礼 関連遺産群」世界遺産登録推進協議会「普遍的価値の証 明」部会における研究会に出席し、検討と議論に参加し た。 | 以下の日程で会議実施 <ul style="list-style-type: none">・2023年3月6日（香川県庁）・2023年12月1日（オンライン参加） |

NPO 法人頸城野郷土資料室
2023 年度学術研究概要報告

研究者氏名 瀧田 寧

| 研究課題 | 研究進捗状況 | 発表状況 |
|---|--|--|
| 【くびき文化に関する研究】 明治期の直江津に滞在したダン一家に関する研究 | 1) 2022 年から 2023 年にかけての直江津往還において、あらためて気が付いたことを報告した。 2) 『直江津往還』刊行後 10 年の間に行った活動と、その活動におけるさまざまな出会いや関連する出来事について、報告を行った。 | 1) コロナ禍明け前後の直江津往還 2023 年 6 月 6 日 道・旅・文化交流プロジェクト第 12 回報告会 Zoom 会議 2) 『直江津往還』のインパクト—刊行から 10 年を迎えて 2023 年 6 月 10 日 NPO 法人頸城野郷土資料室併設学園「くびき野カレッジ天地びと」 新潟県上越市「町家交流館・高田小町」 |
| 【くびき文化に関係しない研究】 17 世紀英仏哲学・思想における蓋然的信念への知性の導き方(とりわけ、ジョン・ロックの哲学を中心に) | 1) 昨年度口頭発表を行った「「哲学する」ことの意義はどのように伝わるのか—ロックの『知性の正しい導き方』とデューイの『思考の方法』を手がかりにして—」(日本イギリス理想主義学会・第 17 回研究大会、2022 年 12 月 3 日) の原稿に加筆修正を施した論文を、日本イギリス理想主義学会に投稿した(現在、刊行準備中)。 | |

| | | |
|--|---|--|
| | <p>2)「イングランド啓蒙への学際的アプローチ－「開かれた理性」の復権を目指して」(日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究(B)による研究会)における研究分担者として、ジョン・ロックの哲学における「試みること」の意義を主題とする論文を執筆し、代表者に提出した(現在、刊行準備中)。</p> | |
|--|---|--|

NPO 法人頸城野郷土資料室
2023 年度学術研究概要報告

研究者氏名 米田 祐介

| 研究課題 | 研究進捗状況 | 発表状況 |
|--|--|--|
| <p>【くびき文化に関する研究】 続・太宰治の〈佐渡〉 —海と「単一表現」をめぐる—</p> | <p>・本研究は、中期太宰の「佐渡」読解を通じて新たな太宰像を模索せんとするものである。昨年、「太宰治の佐渡（1）——〈いきさつ〉から旧制新潟高校での講演を中心に」（2022年5月11日）と題して〈佐渡〉前夜の報告を行った。石塚正英氏、真野俊和氏、石川伊織氏より貴重なコメントをいただき、二つ系として整理し〈佐渡〉本論への舞台設定を行ったのが本年の進捗である。ひとつに、「〈発生〉の系：海、波／浪の音、予感」、もうひとつは、「〈形式〉の系：俳句、『単一表現』」である。この二つの糸を紡ぎ、「佐渡」の位置と意義を確認し、〈道・旅・文化交流〉の趣旨へとつなげたい。</p> | <p>・【報告】「ノート：太宰治の佐渡（1）——寄留、海と『単一表現』」NPO 法人頸城野郷土資料室：〈道・旅・文化交流〉企画（於）オンライン 2022年10月17日</p> |
| <p>【くびき文化に関係しない研究】 近代的自己モデルの限界と分人主義</p> | <p>・本研究は、作家・平野啓一郎の分人主義という思想に光をあて、近代西欧型自己像へのオルタナティブを、換言すれば、この生きづらい時代の中で自己を肯定するとは如何なることかを提示せんとするものである。〈わたし〉を閉じ込める檻としての「個人」ではなく複数の〈わたし〉を生きる「分人」。その理論の内実とアクチュアリティを、「複数の〈わたし〉を生きるということ——個人の限界と分人主義の可能性」として発表した。文学的想像力とはいつの時代も炭鉱のカナリヤであり続けたはずである。</p> | <p>・【コラム／エッセイ】「複数の〈わたし〉を生きるということ——個人の限界と分人主義の可能性」、現代の理論編集委員会編『現代の理論 DIGITAL』第33号、2023年2月 http://gendainoriron.jp/vol.33/column/maita.php</p> |

NPO 法人頸城野郷土資料室
2023 年度学術研究概要報告

研究者氏名 茂木 謙之介

| 研究課題 | 研究進捗状況 | 発表状況 |
|--|--------------------------------------|---|
| 【くびき文化に関する研究】 ・ 地域文化の研究 ・ 地域資料の保全 | 長野・北海道・名古屋・大阪・京都・山形・福島における資料調査を実施した。 | なし |
| 【くびき文化に関係しない研究】 ・ 近代日本における怪異とナショナルイズムの研究 ・ 近代天皇(制)表象研究 | 荒俣宏『帝都物語』についての論考を執筆発表した。 | 茂木謙之介「「魔的なもの」の復活——荒俣宏『帝都物語』論」(『現代思想』51(10)、2023年8月) |

NPO 法人頸城野郷土資料室
2023 年度学術研究概要報告

研究者氏名 山田 彩加

| 研究課題 | 研究進捗状況 | 発表状況 |
|--|--|--|
| <p>【くびき文化に関する研究】</p> <p>①地域と文化（芸術）との関わり</p> <p>②郷土玩具・民芸品の変容または進化</p> | <p>①新潟大学高田分校の教官と卒業生の作品を取り上げた小林古径記念美術館の企画展「芸能科の記憶—学び舎から飛び立った作家たち—」の展示を通し、文化の伝承・継承について論じた。</p> <p>②新潟県内に伝わる民芸品・三角だるまの歴史と、製作・販売の現状について、当事者にインタビューを行なった。</p> | <p>①山田彩加 2023 「絵画が語る民俗芸能」 （『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』フォーラム）</p> <p>②山田彩加 2023 「色を与える—民芸品・三角だるまの変容または進化—」 （『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』フォーラム）</p> |
| <p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>①（文化にとって）「当事者」とは誰か</p> <p>②家族と法</p> | <p>①文化を継ぐ人や団体の意志を、支援者を含めた外部は汲みとることができるのか、また、取材の協力者 interviewee を尊重できているのかを意識・反省する。</p> <p>②昨年度に引き続き、財産の共有・相続を行なう人間関係である「家族」について考える。</p> | <p>①2024 年度くびき野カレッジ天地びとにて発表予定。</p> <p>②現在のところ、発表なし。</p> |

NPO 法人頸城野郷土資料室
2023 年度学術研究概要報告

研究者氏名 湯本泰隆

| 研究課題 | 研究進捗状況 | 発表状況 |
|-----------------|----------|---|
| 【くびき文化に関する研究】 | 特になし | 特になし |
| 【くびき文化に関係しない研究】 | 三島億二郎の研究 | [発表] 8月22日 長岡市倫理法人会 「三島億二郎の肖像画について」 [紹介] 『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』 8巻10号 『扇浦日記』翻刻 |